お茶会だより 10月号

10月24日(火)

柿の実は鮮やかな朱赤に染まり、秋の景色を紅葉とともに彩どっています。

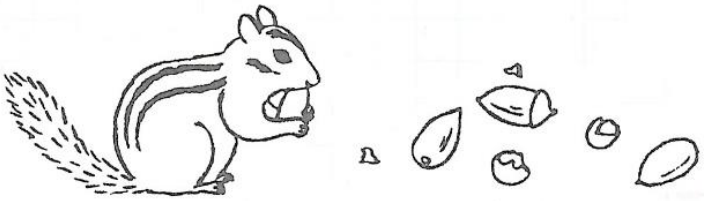
床の間

掛け軸 "かきのみだいすきからすがかー"

お花 ～ ヒオウギ、ミズヒキ、サクラタデ、ホトトギス、ダルマギク

香合 ～ 柿

お菓子 ～ 練り切り "柿"



今月は"ようじ"を使う初めてのお稽古、練り切りのお菓子をいただきました。使いなれない道具に苦戦、お菓子がコロコロ…と畳に転がる場面もありましたが、初めて習うお作法に緊張感を持って取り組んでいた子ども達です。

お稽古を重ねていくことで、「今日のお菓子は何だろう？楽しみ」そんな言葉が自然と口に出てくるようになり、また和菓子が苦手だった子が自ら手を伸ばし口に運ぶようになりました。月一回、一時間ほどの時間ですがこのお茶会で本物にふれ、お茶席での楽しみ、喜びを知ることができていることを強く感じています。

残すお茶会もあと少し、片手で足りるほどの回数となりましたがこの貴重な時間を大切に、子ども達の豊かな感性を育くんでいきたいと思います。

総合案内所でのお稽古は今回が最終回です。次回からはまた場所を保育園へ戻して行います。

【今月の床の間】

今月は、秋の深まりを思わせる床の間となりました

ヒオウギ　ダルマギク
ミズヒキ　ホトトギス
サクラタデ

色紙に合わせ、香合も
お菓子も柿の実

今回の床の間を飾った花器の銘は、「きぬた」。

昔、豆や稲わらなどを叩く時に使った道具を模して、植田先生が作った作品です。ここにも秋の風情を感じます。

【お稽古の様子】

今月一緒にお稽古してくれた、市民福祉課長伊藤昌子さん、PTA 副会長 三浦さおりさん、矢島子供館職員佐藤智子さん、土田裕子さん。久し振りのお客様に、子ども達もちょっと緊張気味。

いつものように、箸を使ってお菓子を取った後、楊枝を一本自分の懐紙へ。食べる時に、お菓子を手に乗せ楊枝を使うと、“手の平がお皿”ということが実感できました。